

UTokyo Compass 2年経過成果報告

2021年9月に基本方針 UTokyo Compass「多様性の海へ：対話が創造する未来 (Into a Sea of Diversity: Creating the Future through Dialogue)」を公表してから2年が経ちました。

私たちはこの UTokyo Compass で定めた目標の達成に向けて、着実に計画を遂行しています。前回経過をご報告した2022年10月以降の代表的な成果をお知らせします。

東京大学は、「世界の公共性に奉仕」する大学として自律的で創造的な活動を持続的に行える仕組み、「成長可能な経営メカニズム」の構築を目指しています。そのため財務経営体制を抜本的に強化することとし、本年4月にはCIO (Chief Investment Officer：執行役(資金運用))として福島毅氏を、同8月にはCFO (Chief Financial Officer：最高財務責任者)として菅野暁氏を新たに執行部に迎えました。本年10月には、松本大氏からの多大なるご寄付をもとに、東京大学初となるエンダウメント型研究組織として「応用資本市場研究センター」を設置しました。今後、大学独自基金をもとにエンダウメント型の財務経営を推進していきます。

教育・研究活動では、昨年10月、ワクチン開発のための研究開発拠点である国際高等研究所新世代感染症センター (UTOPIA) を設置しました。世界のトップレベルの研究者が分野の壁を越えて、感染症対策、ワクチン開発に取り組んでいます。また、本年9月には、大江健三郎文庫が発足するなど、多様な分野での研究活動がこれまで以上に展開されています。

国際社会において重要度が増している量子・AI分野では、海外機関との連携を強化しています。本年5月、G7サミットの機会をとらえ、東京大学及びシカゴ大学と、IBM、Googleそれぞれをパートナーとして、量子技術研究領域の発展に向けた協力関係を構築するため2つのパートナーシップを締結しました。また、マイクロソフトとは、本年8月、グリーントランスフォーメーション (Green Transformation, GX)、ダイバーシティ&インクルージョン (Diversity & Inclusion, D&I) 及びAI (人工知能) 研究の推進に向けた連携のための基本合意書を締結し、11月にはAI Forum 2023を開催しています。さらに、2024年1月、世界経済フォーラム年次総会 (ダボス会議) にあわせて、東京大学 Beyond AI 研究推進機構が発起人 (Initiator) となり AI House Davos を開設します。

学生の教育・研究活動の国際化にも力を入れています。すべての学部生・大学院生のための「国際化教育の全学プラットフォーム」として、本年4月、グローバル教育センター (UTokyo GlobE) を発足させました。現代社会が直面する課題を英語で学ぶグローバル教養科目、全世界の大学生を対象とした短期プログラム (UTokyo Global Unit Courses, GUC) など、学生が世界の舞台で活躍する契機となるプログラムを提供しています。

活動の「場」はさらなる広がりを見せています。本年10月にはJR東日本と、「プラネタリーヘルス」創出をテーマに100年間の産学協創協定を締結しました。今後、TAKANAWA GATEWAY CITYに「東京大学 GATEWAY Campus」を置き、Planetary Health Design Laboratory (PHD. Lab.) を開設する予定です。海外の研究機関と連携した国際連携研究拠点の形成も国内外で進んでいます。フランス パスツール研究所とは、日本に設置予定の拠点「Planetary Health Innovation Center」において、またスウェーデン カロリンスカ研究所とは、国際協創プログラム LINK に基づきカロリンスカに設置した海外ラボにおいて、それぞれ協働を進めます。

「UTokyo Compass」を策定するにあたり、その前提としたことは、私たちはごく限られた地域や空間では大きく発展できたかもしれないけれど、人類社会そして地球全体として見たときに、一人ひとりの well-being の実現はむしろ難しくなっているのではないかと、という問題意識です。パンデミックや気候危機の克服も、そうした課題のひとつです。生成 AI を含むデジタル技術の発展に代表されるような科学技術の革新はめざましいわけですが、それらがもたらす倫理的・法的・社会的課題も含めて、さまざまな局面で大規模に、また速いスピードで変化する新しい日常への対応が求められています。このように、変化が早く単純には解決できない課題ばかりのこの時代だからこそ、「学知」を生み出す場である大学に対する期待は大きく、また貢献できる場面も広がってきていることを実感しています。

大学が生み出した「学知」を持ち寄り、各界の皆様とともに社会的課題について考え、その解決への手がかりや道標を見出していく、それこそが「世界の公共性に奉仕する大学」として本学が担うべき使命で在ろうと考えています。そうした取組みをしっかりと学外の皆さまにお伝えし、支持・支援を得る努力を続けていく、その支援をもとに、自律的な経営を可能とする財政基盤を構築し、次なる「学知」の創出へとつなげる、という好循環を形成したいと考えています。

東京大学は、この価値創出と支援の好循環を通じて自律的で創造的な活動を拡大していく新しい大学の在り方、すなわち「新しい大学モデル」の実現を目指しています。

2027年に東京大学は創立150周年を迎えます。150年の歴史を振り返り、東京大学の果たすべき役割を考え、社会とともによりよい未来を拓く機会にしたいと考えています。今後も UTokyo Compass の成果を随時お届けしていきます。みなさまからのより一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2023年10月31日 藤井 輝夫